

第1回東温市部活動地域移行検討協議会 議事録

日時：令和5年10月10日（火）19時～

場所：東温市役所4階 大会議室

委員出席者数：11名（欠席：池川委員、向井委員）

愛媛県教育委員会：2名（大野指導主事、石村指導主事）、事務局：3名（学校教育課長、藤岡係長、小出主査）、生涯学習課1名：（江崎係長）

1 開会

2 学校教育課長あいさつ

3 自己紹介

4 会長及び副会長の選出

事務局案として川上委員（重信中学校校長）を会長に、藤田委員（市スポーツ協会会長）を副会長に選出する案を提示し、全会一致で承認された。

5 議事

議事前に会長から、川内中学校サッカー部で外部指導者として経験のある下崎友義先生から意見を聞くため、協議会参加提案が出される。全会一致で承認された。

（1）部活動地域移行に関する経緯について

事務局から部活動地域移行について国ガイドライン及び県方針・推進計画に沿って説明。（別紙資料のとおり）特筆する意見等なし。

（2）部活動を取り巻く状況（アンケート結果） （3）課題整理 ※一括して説明

事務局から、令和5年9月5日～20日に在校生、保護者、教職員に対して実施したアンケート結果を説明。

（藤田委員）確認になりますが、部活動は何時から何時まで行っているのでしょうか？

（川上委員）～部活動規程に沿って説明～

（藤岡委員）在校生アンケートの中で、（部活動地域移行が進んで）どの部に入りたいというような希望はとっていないですか？

（事務局）とっていません。

（日野委員）本校生徒は250名ほど在籍し、部活動は希望制に今年度変えました。加入率も下がりませんでした。全体で90%以上が部活動に加入しています。川内中学校では14部活動があって、うちスポーツ部が9、文化部が5で運営しています。軟式野球部に関しては、本校と重信中学校、久万中学校が合同チームで活動しています。サッカー部は10名で、うち3人はトレーフルさんで活動しています。文化部でいうと吹奏楽部が5名で非常に少人数です。バドミントンは男女合計で40名を超えます。年によって部員数にばらつきはありますが、学校単独で運営するにはもう行き詰まりを感じています。設置しているけれど大会参加等に苦慮しています。顧問については、教員が25名おり、管理職を除くと21名全員で部活動を運営しています。基本的には1人で運営している状況。専門性の高い指導を行う顧問が配置されている部活が4、残り5つは、専門ではないが経験がある、或いは全く経験がないという顧問が配置せざるを得ません。文化部については2つの部が専門で指導して、これも教員配置によって変わり、3割から4割が専門性のある指導を行っています。専門的な練習については顧問も勉強しながら進めており、子供・保護者の協力もありながら運営してい

るのが現状です。練習メニューの組み立てや練習試合の開催などは非常に苦慮しており、近年は夏場の熱中症等のリスクが非常に高まっているので、健康面での配慮も含めて過剰なストレスをかけた中で、部活動顧問を担当させているのが現状です。

ただ大会等で見せる子供たちの頑張りや達成感・満足感で見せる表情や態度にやりがいを感じるからこそ、一概に全てが負担であることはないと思います。

(川上委員) 重信中学校は運動部が15、文化部が6の計21です。希望性で加入率は90%程度です。顧問は1人ずつ配置し、副顧問は兼務している部もあります。川内中学校と同じように専門的な指導ができる先生もいれば勉強しながら、また保護者さんの協力をいただきながら運営しています。

吹奏楽部は人数が多く、顧問1人ですべての楽器を指導できないためコンクール前に専門の方に無償でお越しいただいて指導をいただいている、本当に申し訳ないと思っています。

(谷口委員) 川内中学校は先ほど日野委員のご発言のとおり、少子化の影響もあるのかなと感じます。今は重信中学校では影響はなさそうですが、今回の部活動地域移行は将来に向けて、いずれ少子化の影響が出ることを前提に進める方向なのかなという受け取り方をしています。

(トレーフルは) 専門がサッカーですので、サッカー部については、部活動地域移行として何か形にできないかなとは模索していきたいと、ニーズも把握しながら取り組んでいきたいと思っています。

(藤田委員) 部活動地域移行については、協会とも話したのですが、スポーツ協会が受け皿として取り組んでいく必要があるかなと感じています。ただ、皆さん仕事をしながらスポーツ活動をしているので、部活動時間は仕事をしているから、難しいかなと思います。また専門的な指導を受けるとなると報酬を出すことも考える必要があります。平日は時間的猶予がないので、ガイドラインにもあるとおり、まずは休日からというのも頷けます。

(河野委員) 休日は大会が多いので、どう計画的にやっていくかは課題ですね、昔私も川内中学校に指導に行った時期がありますが、私が指導している間、顧問の先生は熱心にノートをとっていました。私がいなくても同じように教えることができるように。「こんな先生もいるんだな」と感心した記憶があります。

もう一つ子供たちの送迎は課題ですね。最近是不審者情報も多いので親御さんの負担を考えないといけません。

(日野委員) 川内中学校では部活動後援会という組織があって、ご賛同いただいた保護者さんからお金をいただいて大会参加費や消耗品購入に充てています。ユニフォーム購入や会場への移動費など大きな出費は市から補助を受けているので活動しやすいです。ただ練習試合は全て保護者の方に送迎をお願いしています。

(川上委員) 市の補助については、現状、新人戦や中体連主催の大会で、他の協会主催については対象外です。今回の地域移行が進めば、市の補助についても整理していただけるのかなと思います。

(渡邊委員) 子どもにとっては正直内申書も気になるところです。部活に所属していないけれどクラブで頑張っていて、一定の成績を収めたとき、内申書がどうなるのかも部活かクラブチームかの選択時に気になります。

(日野委員) 学校ではクラブチームで活動している本人の希望によって壮行会や成績発表も行っていて、内申書についても特記する事項の欄に、部活動をしている生徒と不公平がないよう評価できる体制はとっています。

(森委員) 部活動は、教育のプロフェッショナルとして先生方に責任がかかっているシーンもあるのかなと思

います。もしかしたらそれが保護者側の評判になってきて、活動にも影響が出てくる。それが実際の現状ではなかろうかと思います。地域移行の考え方としては、お手元の資料にあるとおり「地域の実情に合わせて、多様な体験機会を確保」することも必要ですので、そういった環境整備が学校でも必要になってこようかと思います。そしてあとは子供が求める競技レベルの環境。熱心にしたい子とスポーツを楽しみたいという子がいる現状は、県方針にもあるとおり、必ずしも教員が休日の指導等に従事しない体制を整備とありますので、受け皿をレベルに合わせて確保するのも必要かなと思います。

(渡部委員) 個人的には、スポーツは熱心に取り組んでほしいなというか。高校に上がったときに競技レベルに差があると、そのスポーツをやめようかと思う生徒も出てくるのかなと思うので、選択できるように環境は整えてあげたいなと保護者としては思います。

(近藤委員) 今でも市民吹奏楽団で活動していますが、私たちがやってきた昔とは時代が違います。昔は部活に費やす時間も多かったですが、今は活動時間に制限がある中で取り組まれている。個人的にはどうせやるんだったら、しっかりとレベルアップできるところでやってほしいとは思いますがね。

(川上委員) レベルアップしたい子もいれば、競技や活動を楽しみたい子もいるので、例えば「強化していきましょう」となるとそこでギクシャクしていくことは、以前より大きく、顕著になっているのだろうなと思います。

(谷口委員) 今の話に関連すると思いますが、サッカーで先行して受け皿を作れないかなと考えています。現状の部活動に当てはめて考えるのは難しいので、ゼロベースで考えて。要はスポーツを楽しみたい、体を動かすのが好きだという生徒さんは例えば今の部活動の時間帯でやって、もっと競技力、総体で勝つ隊という生徒はクラブチームで補完するような。高校や将来を見据えて、その競技一本でやりたいという子が所属できるのが、いろいろな世代やレベルを選択できる総合型地域スポーツクラブの理想だと思っています。その方向になるべく近づけたいなと。

(藤田委員) 夢のような話かもしれませんが、一定期間いろんな部活に入ってもらって、そこで適性を見つけていくような、若いうちにいろいろなことを経験させてあげられる環境を整えたいですね。非常に難しいとは思いますが。

(日野委員) 本校も近い活動はしていますが、もしかしたらそこまでのコンセプトはないかもしれません。とすれば、今回の地域移行もコンセプトが大事になってきます。外部指導者が入るとしても、コンセプトがなければ独占的な指導に傾く危険もある。子供たちが一番被害を被る。先ほどの話でもあったとおり、学校の部活動はあくまでもいろいろな活動の入り口でありたい。ただ現状ではその機会を学校だけでは継続できないから、地域の力も借りて、多様な受け皿が必要だと思います。逆に言えば、入り口があるからこそ、お金を出しても専門的に習いたいという欲求も出てくるはずなんですよ。少子化や働き方改革によって、その入り口が閉ざされるのを防ぎたい。早い段階でコンセプトを明確にして、すり合わせをして進んでいきたいなと感じています。

(下崎先生) 私は高校の教員をしています。同僚とも話をすると、先生になったきっかけは部活動を指導したいという先生も何割かおられます。しかしそうではない方もあられる中で同じように顧問を割り振られ、責任だけがついてくるのでやはり負担を抱える方が確かにいらっしゃいます。多様な生徒がいるので、レベルや志に応じた環境が整備されるのが理想的だとは思いますが。難しいですが。

実際の指導現場では、指導の質を上げることで時間の問題を解決する方法があります。高校生・大学生のカテゴリでは大体90分から2時間の練習時間でアップからクールダウンまでを終わらせません。時間を長くするのではなく、ギュッと凝縮させて時間内に終わらせる工夫が、サッカーではあ

る程度形になっています。指導者側の工夫も入れながら、その先の指導の目的というのが課題になってくると考えます。教育の観点で指導する方と技術を揚げることに専念されたい方がいるので、その部分を考慮する必要があるかなと思います。

(川上委員) 校長として顧問の先生には「部活動を通じた人づくり」をお願いしています。将来にわたってその種目が好きでいる気持ち、人とのコミュニケーションの取り方などを、部活動を通して育ててほしいと、学校の経営者としてお願いしています。スポーツ少年団には熱心さが裏目に出て、「育てる」という観点がないような指導者の方も実際おられる。勝利至上主義はやめてくださいとはっきり伝えていきます。

(事務局) 初めの藤岡委員のご質問は、谷口委員からお話のあった『部活動をゼロベースで考えて』ということに関連してくるのでしょうか。

(藤岡委員) そうですね。どうしても今ある部活動で考えてしまうので、生徒の意見を聞けば多様なニーズがあるかもしれませんし、ニーズに応じた活動ができる環境整備が必要なんじゃないかと思います。私の頃は1つの部活だけに入るのが当たり前でしたが、今の中学生と関わると、1つの部だけという感覚じゃない子たちが増えているように感じます。いい面悪い面あると思いますが、多様なニーズに応える場所・機会・きっかけとなるのが、この地域移行なのかなとは思っています。

(事務局) 次のステップの話になりそうですが、新しい分野の活動が出来れば、その周知などは市側で行うイメージを持っています。部活動ではないため学校側も顧問を置く必要もないですが、子供たちへの周知は、部活動地域移行の枠組みの中で市側が行うのが良いのかなと。

(日野委員) 次のステップの議論になりそうですが、今川内中学校サッカー部では下崎先生にすごくお世話になっていて、これを部活動地域移行の一つの形として作り上げたいなと思っています。

もう一つは、川内にはなくて重信にある男子バスケットボール部。行きたいという生徒の声もあるので、保護者の送迎負担などもあるし、資金面であるとか、支援の部分で次回以降お話していただければいいかなと思います。

あとはハンドボールも部活動を作ってほしいという声もあります。指導者への報酬はどこから出すのかも議論が進めば出てくる問題だと思います。

(4) 部活動地域移行推進計画(案)の概要説明 (5) 今後の予定 ※一括して説明

事務局が推進計画骨子及び今後の予定について説明

(高橋委員) 対象種目は絞れないので消してもいいと思います。

(森委員) 保護者の協力がないと活動はできないので、推進体制に記載していいのではないのでしょうか。

(事務局) いただいたご意見を反映します。

その他特筆する意見等なし。

6 その他 補助事業説明(愛媛県)

愛媛県教育委員会(大野指導主事)より、部活動地域移行の考え方及び補助事業について説明。

特筆する意見等なし。

7 閉会